交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部文化学科
学年（出発時）	4年
大学名	ライプツィヒ大学
国	ドイツ
留学期間	2016年3月1日～2017年2月12日
派遣先での身分	学生

一日の生活スケジュール（通学時）	
	記入欄
8:00	
9:00	授業
10:00	授業
11:00	昼食
12:00	
13:00	授業
14:00	
15:00	タンデム
16:00	タンデム
17:00	タンデム
18:00	タンデム
19:00	タンデム
20:00	帰宅
21:00	夕食
22:00	勉強
23:00	就寝
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容（レポート、試験、授業形態等）
語学学校：オリエンテーションコース	15時間/5（約2週間）		ドイツ語	B2レベル、発表、試験、少人数での語学クラス
語学学校：　特別集中コース	12時間/3		ドイツ語	B2試験準備、発表あり、試験（読む、聞く、書く）
語学学校：文法B2	1.5時間/ 1		ドイツ語	BからCレベル、試験、文法クラス
語学学校：　発音B2	1.5時間/ 1		ドイツ語	発音の強制、音声学、試験（知識＋発音チェック）
語学学校：　ドイツ語で社会学	1.5時間/ 1		ドイツ語	B2からCレベル、試験、社会学や政治学に関する学術的・専門的な用語の解説など
語学学校：作文作成　C1	1.5時間/ 1		ドイツ語	Cレベル、論文・書評など様々なタイプの作文作成クラス。試験なし、レポートの提出。
大学：翻訳コース〔日→独〕	1.5時間/ 1		ドイツ語・日本語	日本語学科のマスターコースの翻訳クラス。試験あり。毎回宿題で翻訳を行い、授業ではそれをドイツ人と日本人がペアとなって検討していく。
大学：日本語学科5ゼメ〔日→独　翻訳〕	1.5時間/ 1		ドイツ語・日本語	日本語学科3年生の授業。日本語の文法の説明が主。（私は翻訳の宿題が課される時のみ参加）
ゼミ　社会運動について	1.5時間/ 1		ドイツ語	先生の説明の後に、学生が様々な国の様々な社会運動についての発表を行っていく。
大学　社会学	1.5時間/ 1		ドイツ語	講義、新入生のために開講されていた授業、試験

大学のサポート	
チューターの有無	有（ただし申込み制。チューターはボランティアなので当たりはずれが大きい）
チューターのサポート内容	人によって異なる。（私のチューターは出会いを探している男子学生でほとんどなにもしてくれませんでした。）
語学コースの有無	有
コース名、料金、期間等	コース名はコースによって異なる。学校名はStudienkollege Leipzig。期間は学期ごと。料金は交換留学生は基本的に無料であるが、有料の集中コースもある。

生活	
住居のタイプ	寮
住居の名前	前期：Titaniaweg7、後期：Mannheimer Strasse5-7
部屋タイプ	前期：シェア、後期：一人部屋
ルームメイト（国籍）	前期：アイルランド、フランス
室内設備	暖房器具、家具、シャワールーム、冷蔵庫、
共用施設	洗濯機、自転車置き場、音楽のための部屋、エレベーター、
インターネット設備	有
大学までの交通手段（交通機関、所要時間）	路面電車（前期：25分、後期20分）
アルバイトの有無	有
アルバイトの内容	日本食レストランでのホール業務

渡航	
Visaの種類	留学ビザ
Visa申請先	Ausländerbehörde Leipzig（外国人局）
Visa取得にかかった日数	約3か月
Visa取得にかかった費用	約100ユーロ
Visa取得方法、提出書類等	まずはアポイントをEmail等で取り、指定された日程に指定された部屋まで行く。その際、Emailに添付されていた書類をコピーし記入を済ませておかねばならない。内容は、申請書、渡独前に日本のドイツ大使館・領事館で取得しておいた親の経済力証明書、入学許可証、指定された金額（100ユーロ）、写真2枚、保険の契約書。しかし、私の場合は、親の経済力証明書を日本から持参していなかったため、ドイツで取得したドイツ銀行の口座に最低でも20万円は入っている旨を証明する書類の提出を求められた。
留学先大学の最寄り空港までの経路	ライプツィヒ中央駅から空港行のS-bahnという種類の電車に乗れば、15分ほどでハレ・ライプツィヒ空港に到着する。
渡航費用	行き：12万円ほど、帰り：8万円ほど
ピックアップサービスの有無	なし

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	一年間留年予定
有る場合、その理由	4年次に留学を開始したため。
就職活動開始時期	就活予定なし
帰国後の進路	大学院への進学を希望

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円（約）	1ユーロ＝120円
保険料（海外旅行保険、国民健康保険等）	一年間で600ユーロほど（約7万）
学費（教科書代や語学コース授業料等）	教科書代なし、特別集中コース300ユーロ（約3万五千円）、オリエンテーションコース100ユーロ（1万2千円）
宿舎費（月額）	前期：180ユーロ（2万千円）×6か月＝1080ユーロ（12万6千円）、後期：230ユーロ（2万7千円）×6か月＝1380ユーロ（16万2千円）
光熱費（月額）	宿舎費に含まれている
食費（月額）	約200ユーロ（2万3千円）
その他	レッスン代（月100ユーロ（1200円）×6か月＝600ユーロ（71000円））
留学期間中にかかった費用の合計	4260ユーロ（50万4千円）

感想等（※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。）
留学の成果を語ることに尻込みをしてしまう。留学をして得た経験と私が理想としていた留学には明らかに差が認められてしまうから。そこにどう落としどころを付け、納得すれば良いのか、私にはまだわからない。 私が本来留学する目的に上げていたのは、ドイツの右翼デモに関する調査をするためだった。留学先の大学は旧東ドイツ地域にあり、そしてその地域こそ、そのようなデモの活発な活動拠点である。日本にいた頃は接触も試みてみようかと考えていたのだが、実際は、とても恐ろしかった。外国人であるということがこれほど嫌だと感じたのは初めてだった。毎週月曜日に中心地で行われるデモ、あの掛け声。アジア出身で、ドイツ語もまだ碌に話せない小娘が接触できる相手ではなかった。私は彼らの嫌う「移民」に見える存在であったから。 しかし、トランプが政権を握り、イギリスがEU離脱を表明し、各国でポピュリズム政治が行われている近年において、「よそ者（難民や移民、外国人）」を危機回避と評して排除する運動に対する研究は、前にもまして盛り上がりを見せている。つまり、私の研究対象である、難民排斥を目的とするデモ「Pegida」に直接取材や接触を試みずとも、文献は沢山手に入れることができた。さらに、「Proteste und soziale Bewegungen」という研究所が主催していた「Rechtspopulismus als Bewegung? （運動としての右派ポピュリズム？）」というフィッシュボール形式の討論大会にも出席することができた。応募人数がかなりの数だったようで、私が参加できるかは運次第だったのだが、しかし研究所の開催する学術的なイベントにこれほど人が集まってくるのであるから、驚きである。このテーマのアクチュアリ性、そして人々が肌感覚とはいえ感じている危機感が私にも感じられた。この討論会自体は大変面白かったが、私の語学力のせいで、先生方が何を言っているのかはほとんど分らなかった。それが本当に悔しかった。ドイツ人がドイツ人同士で討論・議論する時のドイツ語は本当に難しい。友人や語学学校の先生たちが、外国人の人向けにどれほどやさしくドイツ語を喋ってくれていたのか、身に染みる思いだった。しかし、それもやはり、悔しかった。喋れない、人の言っていることが分からない、特別やさしいドイツ語を使われているという事実が、私をひどく混乱させた。 ドイツ語学習は、傍から見れば「順調」の一言に尽きたかもしれない。話せる量も、書く力も、読む力も、リスニング力も格段に上がり、もともとB1レベルだったのだが、最終的にはB2のドイツ語能力試験にも合格することができた。中級から上級へと、一歩足を踏み入れることができるようになったのだ。 しかし、それでは全く足りない。目標であったB2に合格すれば、ひとまずは安心だろうと考えていたのだが、B2に到達した今でも私の瞳が捕えているのは、Aレベルの時と一寸も変わらぬ荒野である。それどころか、理想から離れていってしまうような気さえする。 そうやって、満足ができ得ないというのは、ある意味モチベーションを保っていられるという意味では、いい事なのかもしれない。しかし、理想と現実の狭間で、到着点の見えなさに自己嫌悪し、自分で自分の実際的客観的なレベルを図ることの不可能性(いつも低く見積もってしまうため)が、私をひどく苦しませた。今でさえ、苦しんでいる。 だからこそ、「留学の成果」を書く時でさえ、「理想」と「実際得たもの」の差に驚愕し、悲しくなってしまうのだ。しかし、後悔は力になる。後悔しているからこそ、「また来よう。また挑戦しなくては。」と考えられるのだと思う。私はすでにC1に向けての勉強を始めている。大学院に合格すれば、またドイツで留学したいと思う。その時には今回よりも幾分かは「理想」に近づけているはずだ。

今後留学する人へのアドバイス
「留学すれば人生が変わる」ということを簡単に言う人がいる。しかし、私はそうは思わない。留学をして、海外で新しい、まったく知らない・慣れない生活をしてみることで、開かれる世界もあるのかもしれないし、実際それによって生きていく道を決めた人もいるかもしれない。しかし、パッと瞬間的に何かが変わったりすることは、残念ながら「ない」、少なくとも私の場合は「なかった」と言わざるを得ない。 しかし、自分のことを知る良い機会になると思う。留学中、一番悩まされたのは「自分と向き合う」ということの辛さである。自己嫌悪と問題やトラブルばかり発生する留学生活のなかで、どれだけ自分を肯定し続けられるか、良い精神状態を保っていられるか。そういったギリギリの追い詰められたような状態のなかで、自分と向き合う、自分のダメなところを知っていく、改善しようと試みる。簡単に、凡庸に聞こえるかもしれないけれど、それが本当に苦しかったし、それにそういう自分と向き合うというのは、海外だからこそできたことだったと思う。そして、その繰り返しによって、「何か」が確実に変わっていったと思う。さらに言えば、自分が何者であるかを知るということが、「何か」を変えるキッカケとして機能したのだと思う。 私は、留学する前の自分と、今の留学した後の自分ならば、今の自分の方が確実に好きである。失ったものもたくさんあるし、持っていた自信なども全て折られてしまったが、それでも私はここに立てたこと、そしてここまで来ることができたことを誇りに思っている。そして、それは折られた自信よりも、強い自信となって、私を支えてくれるだろう。 自分には何もないと思っている人、一本の太く強い意志がほしいと思っている人、自分に絶望して悲しんでいる人たちに伝えたい。大丈夫、それはきっと留学の中で克服できる。そして、格段に強くなれる、と。

報告書記入日	2017年2月26日